

主要科目の特徴（医学研究科博士課程）

科目名	特長
基礎教育 Basic Course	大学院における初期教育として、がん学、免疫学、遺伝医学、臨床薬理学、形態学的手法、統計学的手法、動物実験やRI・放射線の基礎、医療情報システム、リスクマネジメント、医事法制学といった研究手法の原理・科学的思考法などの基礎知識を学習する。
基礎教育 Research Support Course	研究基盤センターの各研究室（生体分子研究室、細胞機能研究室、形態解析イメージング研究室、共同研究・研修室、疾患モデル研究室）より、研究施設の概要、設置機器等の説明及び利用上の注意等の講義を行い、今後、研究基盤センターの研究施設を有効に利用し、研究を発展させていく場となることを学習する。
基礎教育 Advanced Course	学位論文を作成するための基礎的な教育として、研究計画の立て方、論文の作成方法、研究行動規範、効果的なプレゼンテーション方法、知的財産管理など論理的思考、課題解決法、表現力の基本を学習する。
実践教育	13のコースワーク（分子病態生物学、画像病理形態学、免疫アレルギー学、腫瘍医学、神経医科学、ライフスタイル医学、社会の中の医学、再生・再建医学、動物実験、耐性菌同定法及びウイルス力価測定法体得、臨床統計入門、臨床統計応用、医療・医学入門）がある。それぞれ基礎医学系と臨床医学系双方が連携して講義・演習・実習を組み合わせた統合化した授業を行う。
レクチャーシリーズ	大学院特別講義では、関連領域の研究を幅広く学習すると共に、大学院生としての豊かな教養の涵養と国際的通用性を身につける。
専門教育	所属する研究分野で実施される専門教育であり、高度な知識、技術を身につけ、自らの専門性を高めるための授業である。「専門講義」「専門演習」「専門実習」で構成される。また、主専攻の研究分野、主専攻を補完する副専攻の研究分野から、専門講義、専門演習、専門実習を履修することが可能である。
専門研究	専門研究は論文基礎・応用演習であり、「研究指導」と「ポスターセッション」で構成される。論文の作成は自立した研究者として成長する大事なステップとなる。特に3年次から4年次には、論文作成の基礎・応用演習を通じて研究結果を論文として執筆する。